

(別添2)

スポーツ指導における暴力根絶に向けて

(明るく、楽しいスポーツ環境づくり)

スポーツは心身の発育・発達、健康の保持・増進、体力の維持・向上、自立心や協調性の涵養など、人が成長するために多くの素晴らしいものをもたらしてくれます。選手がその競技力を向上させるためには、コーチや医・科学の専門家からの指導やサポートにより、選手自らが考え、理解し、実践していくことが重要です。

スポーツ指導の名の下に体罰や暴力を用いることは指導する側の自己満足にすぎず、競技力向上につながらないばかりか、選手にとっては肉体的、精神的苦痛以外のなにものでもありません。一人ひとりの人間の尊厳を傷つけるという重大な問題を含んでいます。

当協会は、スポーツ現場での体罰や暴力を許さない立場で、関係団体や指導者にも同様にその根絶を強く求め、また、選手のスポーツの権利を守るとともに、その組織運営においても、公正、公平と透明性を強く求めていきます。

平成 25 年 2 月 14 日

公益財団法人日本障害者スポーツ協会
会 長 鳥 原 光 憲